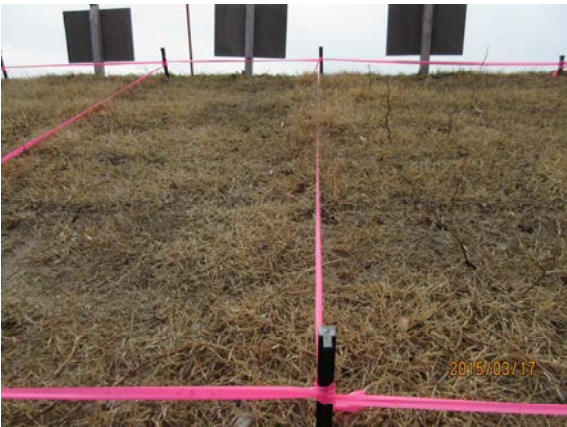

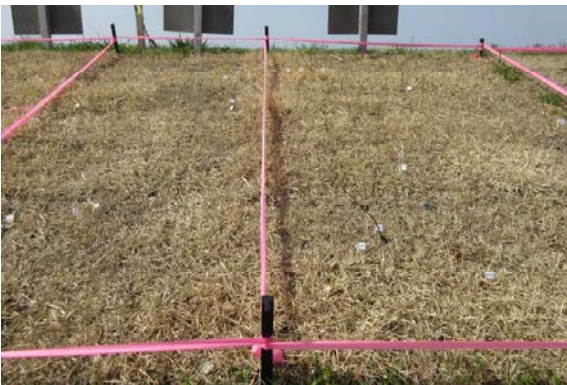



イタドリ実験ノート

2016. 4月上旬編

| 写 真 ・ 図 等 | 観 察 記 録 ・ 説 明 等 |
|---|--|
|  | <p>【2016.3.17】</p> <p>ようやく雪が融けました。実験場は枯れたイタドリの幹が残っているだけです。 (リボンの右が網(ジオネット)を敷いていない区画。左の区画は1mmの網を敷いた区画)</p> |
|  | <p>【2016.3.31】</p> <p>実験場に春の日差しがまぶしく当たっています。春めいてきた堤防ですが、イタドリの発芽はまだありません。 (リボンの右が網(ジオネット)を敷いていない区画。左の区画は1mmの網を敷いた区画)</p> |
|  | <p>【2016.4.9】</p> <p>土曜日の午前の実験場。イタドリの発芽が始まりました。 イタドリの成長を記録するために白いナンバープレートを立てました。爪楊枝を利用しています。 (リボンの右が網(ジオネット)を敷いていない区画。左の区画は1mmの網を敷いた区画)</p> |
|  | <p>【2016.4.9】</p> <p>4番のイタドリの芽は上記の左の区画です。丈は2cmほどになっています。幹の太さが4mm近くに太っています。もしかして網が広がっているのではないかと思います掘ってみることにしました。 イタドリの新芽が紫色なのは太陽光の紫外線に関係するのだそうです。そして、芽は夜中に成長するらしいです。</p> |

| 写 真 ・ 図 等 | 観 察 記 録 ・ 説 明 等 |
|---|--|
| <p>【標本】</p> <p>【スケッチ】</p> <p>※ 網は広がってはいない</p> | <p>【2016.4.9】</p> <p>4番の芽を掘って採取しました。 昨年の幹の太さは2.1 mm、そこから新芽が発芽して、太さは3.5 mm。この新芽がどこまで成長できるかが観察のポイントになります。根元が貧弱な状態で、かつ、3 cm程の厚さの土壌の条件で成長できる範囲は大幅に制約されるのではないかと考えます。 なお、網の目は広がっておらず変状はありませんでした。</p> |
| | <p>【2016.4.9】</p> <p>実験場の近くの堤防で太いイタドリの新芽を見つけました。 隣接の切り株の太さが2 cm程度もあるので、昨年は2 mぐらいの草丈になったと思われます。 おそらくこの新芽も2 m近くに成長することでしょう。 この辺りはイタドリが多く繁茂していて、もともとあった野芝は枯れて裸地化しています。これはイタドリのアレロパシー効果によるものです。 周辺にはたくさんのイタドリの新芽が顔をだしています。</p> |
| | <p>【2016.4.9】</p> <p>雄物川と実験場の風景です。 昨年の夏と晩秋に張った芝はまだ緑にはなっていません。周りの雑草の緑が濃くなってきました。 実験エリアにはポツポツと小さなイタドリの新芽が顔を出しています。</p> |
| | |